

点検・評価シート（2）

健康都市やまとMANABI計画 （大和市生涯学習推進計画）

（教育委員会所管分）

◆ 評価の基準について ◆

○施策目標の「総合評価」

A評価	施策目標の実現に向けて、期待を上回る結果が表れている。
B評価	施策目標の実現に向けて、期待された結果が表れている。
C評価	施策目標の実現に向けて、期待された結果が表れていない。

○個別目標の「達成度」



A評価	個別目標の進捗状況が、令和元年度に期待された結果を上回っている。
B評価	個別目標の進捗状況が、令和元年度に期待された通りの結果になっている。
C評価	個別目標の進捗状況が、令和元年度に期待された結果を下回っている。

施策目標1 誰もがいつでも気軽に学習できる場を提供します

市民の学びを推進するにあたっては、多世代にわたって誰もが自らの意思で学び始めるきっかけづくりが重要です。

そのために、誰でも気軽に学習できる場を提供することで、学習への興味や意欲を湧き立たせ、より多くの人々に自己の充実、生活の質的向上をもたらすことができます。

個別目標1—(1) 市民一人ひとりにとっての「居場所」の提供

- ・人口減少社会の到来、人生100年とも言われる長寿社会の到来という新たな時代の中で、生涯学習においても、社会状況の変化に対応していく必要があります。
- ・特に、退職後、地域とのつながりが少ない方や同居家族のいない方などの「おひとり様」を対象に、学習機会や「居場所」の提供などを進め、これらの人たちが充実した毎日を過ごせるよう支援していく必要があります。
- ・そこでは、人と人との新たな出会いや交流、学びへの興味や意欲の向上が期待されます。

【めざす姿】

市民の学びに関わる機会が増えている。

【施策の内容】

- 「健康都市大学」を開講します。
 - ・「大和市民大学」を大幅にリニューアルし、市や関係団体等が実施する学習機会を、共通の仕組みで一つにつなぐ「健康都市大学」を開講します。
 - ・そこでは、市民が講師となり市民に教授する講座等を充実させるなど、学びを通じた、市民の居場所づくり、交流の場づくりを目指します。
- 市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。
 - ・「文化創造拠点シリウス」を中心に、「市民交流拠点ポラリス」、各地区学習センターなどを市民の「居場所」としても活用し、学習に触れる機会を提供します。
- 誰でも気軽に利用できる学習スペースを提供します。
 - ・主に、学習センターの一部の会議室等を、誰でも自由に学習できるスペースとして開放し、市民が気軽に利用できる学習の場を提供します。
 - ・「シリウス」や「ポラリス」に設置している市民交流スペースをはじめとした、誰もが自由に利用できるスペースを提供します。
- 気軽に立ち寄ることのできる図書館で学習機会を提供します。
 - ・いつでも、だれでも、だれとでも利用できる図書館を「市民の居場所」として提供するとともに、一人ひとりの知的好奇心に応じた学習の場を提供します。

① 活動指標

(網掛け部分は市長部局の所管)

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 ※1 (H29)	実績					最終目標値 (R5)
			※2 R1	R2	R3	R4	R5	
○健康都市大学の開講数	回	—	※3 309					363
○学習センターの開館日数	日	生涯 363	332					364
		ポラリス—	328					360
		つきみ野 308	326					358
		桜丘 131	326					358
		渋谷 346	317					347
○図書館の開館日数	日	本館 363	332					363
		中央林間—	332					363
		渋谷 346	317					346

※1 計画策定時（平成 29 年）はポラリス、中央林間図書館は開館前のため実績なし。なお、地区館は直営のため月曜休館。また、桜丘学習センターは改修工事のため平成 29 年 9 月～平成 30 年 3 月まで休館。

※2 令和元年度の開館日数については、令和元年 10 月 12 日(土)大型台風 19 号に伴う全館休館が 1 日、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館期間令和 2 年 3 月 1 日(日)～31 日(火)。

※3 健康都市大学は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い令和 2 年 2 月 22 日(月)～3 月 31 日(火)まで臨時休講。

② 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○健康都市大学の受講者数	人	—	9,535					2,600
○市民一人当たりの学習センター来館回数	回	4.74	8.64					6.42
○図書館の来館者数	人	3,053,751	4,002,361					4,177,000

担当: ◎文化振興課、○図書・学び交流課、◇スポーツ課、●こども・青少年課

③ 施策の成果

- ・「文化創造拠点シリウス」を中心に、「市民交流拠点ポラリス」や各地区学習センター、図書館や中央林間図書館、渋谷図書館など、市内の施設を人と人の新たな出会いや交流、学びへの興味や意欲の向上のために市民の「居場所」として提供しました。



文化創造拠点シリウス6階
市民交流スペース



中央林間図書館



健康都市大学
「市民でつくる健康学部」

【学習センター】

- ・学習センターにおける「学習機会」や「居場所」の提供のため、多くの市民が訪れる「文化創造拠点シリウス」を中心に、シリウス2階のラウンジでは上質で快適な家具をそろえた有料ラウンジを、勉強や打ち合わせスペース、セカンドオフィスなどとして提供したほか、予約せずに誰もが利用できる市民交流スペースや、当日の団体利用の無い空き会議室を有効に活用した学習室の開放を行い、気軽に学習できる場を提供しました。

【図書館】

- ・現在、市内には文化創造拠点シリウスを中心に3つの図書館を設置し、それぞれの地域の特性に合わせた特色ある図書館を運営しています。中でも大和市立図書館は文化創造拠点シリウスの「全館まるごと図書館」というコンセプトのもと、館内には神奈川県下で最も多い951席の座席を配置し、館内どこでも図書館の本を読むことができ、居心地のよい空間づくりに努めました。その成果もあり、令和元年度は年間302万人の来館者があり、まさに市民の「居場所」として親しまれています。なお、市北部の中央林間図書館は年間82万人、南部の渋谷図書館は年間16万人と、3館合わせて年400万人の来館者があり、市が進める「図書館 城下町」施策の各地域における拠点として多くの市民に利用されました。

【健康都市大学】

- ・「人の健康学部」や「まちと社会の健康学部」を構成する市や関係団体等が実施する講座などをまとめた「健康都市大学ガイドブック」を発行し、わかりやすい形で市民に学びの情報を提供しました。
- ・健康都市大学の中心的な事業でもある、市民が講師を務める「市民でつくる健康学部」の講座は、連日多くの受講者で賑わい、学びを通じた市民の新たな居場所となりました。また、市民講師が他の市民講師の講座を受講したり、受講者が市民講師に応募したりするなど、新たな学び合いの場となっています。
- ・成果指標の最終目標値の2,600人（令和5年度）は、平日、一日当たり10人の受講者を想定して算出したものですが、開講以来、土日祝日を問わずシリウス開館日に講座を開催したことや、100人を越える市民講師が、毎日魅力的な講座を行ったことで、想定を大幅に上回る受講者数に繋がったものと捉えています。

④ 今後の課題

【学習センター】

- ・台風などの災害や、新規感染症に伴う臨時休館については、休館や再開の周知のタイミングが課題です。
- ・市民交流スペースでは、一人ひとりの「居場所」作りとしては機能していますが、「市民交流」や「地域とのつながり」への発展に向けた取り組みなどが、現状ではできていません。ただし、学校の読み聞かせボランティアや、編み物をしているグループの利用、健康都市大学の講座受講後に受講生同士で囲んでいる様子なども見られるため、子どもや学生、大人まで多くの人を訪れる施設の特徴をうまく活用し、団体やサークル活動の更なる発展や、新たな学びへつなげるための仕掛けづくりが今後の課題です。

【図書館】

- ・平成28年11月の大和市立図書館の移転開館、平成30年4月の中央林間図書館の開館及び渋谷学習センター図書室の図書館法にもとづく図書館としての位置づけに伴い、平成31年4月から市内の図書館は全館が民間の指定管理者による管理運営体制に移行しました。今後はそれぞれの図書館が地域に根差した特徴ある図書館としての機能を十分発揮するとともに、各図書館が連携し、様々な図書館施策を有効に展開するため、民間事業者の能力を十分に活用した一体的な管理運営のあり方を検討する必要があります。

【健康都市大学】

- ・想定を超える受講者数により、「市民でつくる健康学部」では講座によって座席が不足する場合があります。会場（シリウス4階健康テラス）の広さに制限はあるものの、より多くの受講者が着座して受講できるよう、学習環境を整えていく必要があります。
- ・多くの受講者の学びが継続されるよう、魅力的な講座を維持していくことが求められます。

個別目標1—(1) 市民一人ひとりにとっての「居場所」の提供

[達成度] A

個別目標1—(2) 生涯各期に合わせた学習機会の提供

- ・人口減少社会の到来をはじめ、グローバル化や情報化の進展など、今日の社会状況は目まぐるしく変化しています。
- ・このような社会を生き抜き、充実した生涯を送ることができるよう、一人ひとりの生涯各期に合わせた学習機会の提供が必要です。

【めざす姿】

乳幼児から高齢者まで全ての世代にわたって、意欲的に楽しく学習する市民が増えている。

【施策の内容】

- 乳幼児期に対応する学習機会を提供します。
 - ・乳幼児の健全な心身と生活の基礎を養うとともに、保護者の子育てに関する悩みや不安などが軽減されるような学習機会を提供し、家庭教育支援を推進します。
 - ・保護者同士の交流の場や学習の場を設けて、乳幼児と保護者がともに学び、成長できるような機会を提供します。
 - ・様々な読書活動を通じて乳幼児と保護者がさらにふれあいの時間を持つきっかけとなるような機会を提供します。
- 青少年期に対応する学習機会を提供します。
 - ・「社会を生き抜く力」を養うために、生涯にわたって学び続ける意欲や、自らが考え、判断し、行動できる資質や能力を身につける学習機会を提供します。
 - ・青少年が、社会体験や自然体験など様々な体験により、自主性や協調性を養うことができる学習機会を提供します。
- 成人期に対応する学習機会を提供します。
 - ・家庭、地域、職場での生活を豊かにするため、趣味や教養、就労などに関する学習機会を提供します。
 - ・高齢期に向けて、新たな生きがいの発見や地域とのつながりを促す機会、また健康づくりのための学習機会を提供します。
- 高齢期に対応する学習機会を提供します。
 - ・高齢化に伴う新たなライフスタイルに対応した、趣味や教養、健康に関する学習機会を提供します。
 - ・学び直しや新たな学びに挑戦する意欲や生きがいを持つとともに、自己の知識や経験等を次世代の育成や地域での社会貢献に活かせるような学習機会を提供します。

実施計画での取組と令和元年度の実績

① 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○乳幼児期に対応する講座等の開催事業数	事業	46	35					40
○おはなし会の開催回数	回	282	270					282
○青少年期に対応する講座等の開催事業数	事業	28	21					28
●ユースクラブが知識や技術を習得するための会議や研修の実施日数	日	26	22					27
●こども体験事業の活動報告パネルの展示日数	日	151	288					151
○成人期に対応する講座等の開催事業数	事業	16	12					15
○高齢期に対応する講座等の開催事業数	事業	10	11					11

② 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○乳幼児期に対応する講座等の延べ参加者数	人	6,927	10,818					7,646
○図書館や保育園などでのおはなし会の延べ参加者数	人	3,103	5,330					3,420
○青少年期に対応する講座等の延べ参加者数	人	1,330	1,070					1,466
●ユースクラブの活動日数	日	90	79					92
●こども体験事業参加者数	人	29	25					30
○成人期に対応する講座等の延べ参加者数	人	613	594					674
○高齢期に対応する講座等の延べ参加者数	人	693	1,069					762

担当: ◎文化振興課、○図書・学び交流課、◇スポーツ課、●こども・青少年課

③ 施策の成果

- ・生涯各期におけるさまざまな問題をテーマとして、市民ニーズに応じた学習機会を提供しました。また、事業実施後にはアンケートを用いて事業の成果の把握に努めました。
- ・令和元年度より、生涯学習センターは全館指定管理者による管理運営となりましたが、各館では引き続き、市の事業や地域、学習団体と連携して生涯各期に合わせた学習機会の提供を行いました。

【乳幼児期】 幼児家庭教育学級や子育てネットワーク作りのための保育室開放事業などを実施しました。また、講座の内容も、乳幼児期の子を持つ保護者が月齢と発達にあったふれあい方を学ぶ講座から、親子で手遊びやリズム遊びなどを体験し、実際に親子間、子ども同士、親同士で交流する講座などを開催しました。

各講座では、企画意図に合わせた評価指標を設け、アンケート等により実施効果を測っており、「幼児家庭教育学級 イヤイヤ期をキラキラに変えるハッピー家族の作り方」の講座では、「毎回、子育てのヒントになるアドバイスがあり、子どもの気持ちになって考えられるようになりました。」「イタズラをしてもすぐに怒るのではなく、この子は今、何を考えているのかな？と様子をうかがう時間ができました」など、イヤイヤ期（生後6カ月～2歳前後）の子育てにおける気持ちのやわらげ方や、子どもへの寄り添い方を学び、さらに参加者同士や夫婦で育児に関する悩みを共有する様子が伺えました。他にも孤立化予防や、学んだことを実践してみたいとの意見もあり、継続的な学習につながっていることが確認できました。なお、講座実施数は計画を下回りましたが、参加者数は計画策定時を大幅に上回りました。



親子で表現 わくわくキッズ大集合

【青少年期】 青少年期の子どもを持つ保護者のための児童家庭教育学級（セミナー）のほか、青少年期の児童・生徒を対象に、地域人材の知識や技術を活用した体験活動の場や、「出てこい未来のエジソン！」と題し、科学に関するお話と理科の実験や工作を体験する講座を実施しました。

アンケートには、がんばったことや難しかったことを書く子もいれば、工作で工夫したことを一生懸命書いて説明しているものなどもあり、難しい内容でも、楽しく学んでいる様子が伺えました。

また、日々の生活や部活動などで経験する逆境や困難などに対応するための、「レジリエンスくじけない心を育てる」と題した児童家庭教育学級では、小学生の子を持つ保護者を対象に、レジリエンス（困難や逆境からの回復力）の基礎作りを目的に、保護者が自らのレジリエンスを育てることを学び、子どもに教えるための講義が行われました。参加者からは、「これから社会に出る子どもの、くじけない心の育て方を学びたい」などの受講動機もあり、「教わるだけでなく、講座の中でワークをすることで、自分を見つめることができました」、「子どもへの声掛けや接し方に迷いがあったが、講座を参考に行動していきたい」などの、態度や行動変容につながる意見がありました。



令和元年度子ども科学講座
～出てこい未来のエジソン！～

【成人期】 家庭・地域・職場で活用できる自己啓発・能力開発等のための講座を実施しました。「ミュージカルソングワークショップ」では、仲間と共に歌うことや、自己実現の方法としての歌唱を通して、心と体の健康維持を目指し、講座終了後には成果発表の場として、文化創造拠点シリウス開館周年祭でパフォーマンスを行いました。引き続き、個人が家庭生活や地域社会活動、仕事などにおいて役立つ講座や自己実現に向けた取り組みを支援できるような講座の企画や支援を周知します。

【高齢期】 高齢期においても元気に、生きがいづくりや健康づくりに取り組むための講座を実施

しました。シニアセミナー「楽しくスイング いきいき合唱♪ショークワイア」では、11月のポラリスまつり（学習センターまつり）での発表に向けて、新たなことに挑戦することで達成感を得る機会として2か月間全10回の講座を開催しました。参加者からは「充実した時間でした」や「シニア世代に機会を作っていただきありがとうございました」などの意見や感想があり、毎回楽しく参加している様子がみられました。

また、椅子に座って行う運動などを日常に取り入れて、日々の暮らしの中で健康を意識することを学ぶ「たのしく続けて！動いて健康！」は4月から定期的に講座を開催し、日常的に運動を取り入れ、健康を意識するきっかけとなるよう、継続講座としました。講座の参加者アンケートでは「運動すると気持ちが良い、元気が出る」、「体を動かすことの大切さに気付いた」、「家でも試したい」などの意見があり、日常的な運動への意欲が多くみられました。

- ・図書館では、子どもの読書活動を推進するため、本市における第3次子ども読書活動推進計画として位置づけられる「こども読書わくわくプラン」に基づき、乳幼児期からYA（ヤングアダルト）世代と言われる中高生期における、読書活動推進のための様々な取り組みを進めました。そのなかでも乳幼児期の読書活動を推進するための各種おはなし会を22回実施しました。また、市の母子保健を担当する部署と連携し、すべての子どもに人生最初の本との出会いを作るための取り組み、ブックスタート事業を実施し、令和元年度においては1,867組の親子に絵本を届けるとともに、ブックスタート会場では同時にボランティアによる読み聞かせを実施しました。

また、小学生を対象とした一日図書館員や図書館見学、中学生の職場体験学習を実施し、延べ476人の小中学生に図書館をより身近に感じてもらえるような取り組みを行いました。

- ・ユースクラブに対して、子どもが企画から運営まで体験できる機会を提供することで、中学生、高校生、青年と、発達段階に合わせて自主性や主体性を育み、さらには仲間作りを通して協調性や社会性を身に付けさせることができました。また地域で開催されるイベントへ協力することで、地域社会とのつながりの重要性を学ばせることができました。
- ・こども体験事業については、東日本大震災の被災地訪問や事前事後研修、青少年健全育成大会での活動発表など、子どもたちが様々な体験を通して、震災への理解を深め、防災への意識を高める機会を提供しました。また、各小中学校における活動報告パネルの展示期間を昨年度より長く設定することで、より多くの子どもたちへ事業を周知することができました。



夏のとくべつおはなし会



こども体験事業

④ 今後の課題

- ・生涯各期の講座が計画を下回り、受講者も同様に少ないものが多くありました。新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い学習センターを年度末に休館し、講座を中止したことなどが影響しました。
- ・桜丘学習センターでは、過去に学習センターで実施された子育て事業に参加したことのある保護者を対象に、講座での気づきや学んだこと、家で実践する中での疑問や課題を他の保護者と共有、解決する場として「シェアカフェ」を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い中止となりました。本講座は、学んだことなどを保護者間で共有することによる交流だけでなく、講座に関する情報交換や今後どのようなことを学びたいか、さらなる学びへの関心、学びを深める効果が期待されていたため、引き続き継続して実施できるよう、指定管理者と情報共有していきます。
- ・指定管理者による生涯学習センターの事業運営には、これまで市の事業や地域とのつながり、団体との連携や市の計画と評価について情報共有しながら、引き続き本市の生涯学習推進に向けた施設運営を行う必要があります。
- ・文化創造拠点シリウスの大和市立図書館、中央林間図書館は、多くの中高生により利用されていますが、自習での利用が多く、本の貸し出しや読書活動に必ずしもつながっていないという課題があります。今後は図書館に来る多くの中高生に対し、さらなる本との出会いを提供し、本の面白さや、読書の大切さを普及啓発していく取り組みが必要です。
- ・ユースクラブでは、今後も運営を安定的かつ継続的に行えるよう、会員の確保と活動参加者の増加に努めるとともに、会員一人ひとりの子どもに対する指導力がさらに向上するための活動プログラムを検討、企画、実施し、人材育成を図る必要があります。

個別目標1—(2) 生涯各期に合わせた学習機会の提供

[達成度] B

個別目標1—(3) 市民のニーズや現代的課題に合わせた学習機会の提供

- ・多様化する市民の学習ニーズに応えることが求められています。
- ・急変する社会状況や生活環境に対応した学習機会の提供も必要です。

【めざす姿】

自らの興味や社会状況に合った学習をすることにより、心や生活が充実した市民が増えている。

【施策の内容】

- 市民ニーズに応える学習機会を提供します。
 - ・市民の学習ニーズを的確に把握し、それに対応した学習機会を提供します。
 - ・受講者アンケートなどにより、変化する学習ニーズの把握に努めます。
 - ・指定管理者のもつ民間ノウハウを活用し、充実した学習機会を提供します。
- 社会状況に対応した「現代的課題」に関する学習機会を提供します。
 - ・地球環境の保全、国際理解、男女共同参画社会の実現、情報化社会への対応など、市民が社会生活を営む上で理解し、身につけておくことが望まれる課題についての学習機会を提供します。

実施計画での取組と令和元年度の実績

① 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○アンケート調査の実施回数	回	204	160					150
○現代的課題に対応する講座等の開催事業数	事業	39	29					38

② 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○アンケートによる参加者の満足度	%	94	98					94
○現代的課題に対応する講座等の延べ参加者数	人	1,615	1,992					1,780

担当: ◎文化振興課、○図書・学び交流課、◇スポーツ課、●こども・青少年課

③ 施策の成果

- ・学習センターで実施した各講座においては、ほとんどの講座でアンケートを実施し、企画意図に合わせた評価指標を設け、実施効果を測ることができました。
- ・現代的課題とは、時代の急激な変化からくる様々な課題に対応するため、社会の変化に対応し、人間性豊かな生活のため人々が学習する必要がある課題のことで、個人のニーズと社会のニーズに基づく学習機会の提供が求められることから、多文化共生や防災、環境について学ぶ講座など、様々な現代的課題をテーマとした学習機会の提供に努めました。
- ・令和元年は大和市制60周年であったこともあり、大和の歴史について学ぶ講座を開催し、受講者からのアンケートでは「身近な内容でとても面白く拝聴させていただいた」、「大和市に転居してきたので、市のことを知りたいと思い受講したが、大和市が益々好きになりました」などの意見があり、講座のテーマとして市民に身近な「大和の歴史」を取り上げたことで、今回講義を行った時代以外の歴史にも興味を持つなど、継続した学習意欲がみられました。
- ・今年度は、市内5館全ての学習センターが指定管理者による管理運営となったこともあり、各学習センターの連携講座として、市全体で防災に対する知識を深め、意識を高めることを目的に「防災」をテーマに講座を実施しました。



南極アートワークショップ
～さいはての氷のせかい～



3Dプリンターを体験しよう

④ 今後の課題

- ・各学習センターでは様々なジャンルの講座を開催し、アンケート結果にもあるとおり参加者の満足度は非常に高いものとなりました。
- ・市内学習センター5館連携講座として「防災」をテーマに、各館で「在宅避難への備え」、「災害の歴史」、「火災の実際」などの講座を実施しましたが、「防災」をテーマに現代的課題と紐づけし、「避難所生活」や「災害ボランティア」、「災害時の情報通信技術」など、災害時のニュース等よく耳にする身近な内容を取り上げ、各館でテーマを補足しながら1つの「防災」という大きなテーマを作り上げるような方法ができれば、現代的課題のテーマ「防災」に偏らずに地域社会やボランティア、情報通信などを学ぶこともできたことから、引き続き指定管理者と講座情報について共有していきます。

個別目標1—(3) 市民のニーズや現代的課題に合わせた学習機会の提供

[達成度] A

個別目標1—(4) スポーツや健康に関する学習機会の提供

- ・生涯を通じて健康で豊かな生活を送れるよう、日常的にスポーツに親しむことができる環境や機会を提供することが必要です。
- ・また、市民の健康に対する意識の高まりに応じた健康に関する学習機会の提供も求められます。

【めざす姿】

日常的にスポーツに親しみ、健康的に暮らす市民が増えている。

【施策の内容】

- スポーツに親しむことができる学習機会を提供します。
 - ・市民の自発的なスポーツ活動を奨励する教室やイベントなど、スポーツに関する様々な学習機会を提供します。
 - ・スポーツの大会や試合などの観戦の機会を提供し、市民のスポーツへの興味、関心を高め、健康への意識啓発を図ります。
 - ・スポーツを通じた健康づくり、地域の絆づくり等を推進させ、老若男女を問わず市民の誰もが生涯にわたって豊かな活動を送れるようにします。
- 健康維持・増進につながる学習機会を提供します。
 - ・健やかに楽しく生きるための知識を深め、健康づくりにつながるような健康維持、増進に関する学習機会を提供します。
 - ・食事や運動だけでなく、市民ニーズに応じた健康に関する様々なテーマによる学習機会を提供します。

実施計画での取組と令和元年度の実績

① 活動指標

(網掛け部分は市長部局の所管)

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
◇スポーツ教室 開催延べ教室数	教室	14	16					14
◇スポーツ観戦 機会の提供数	回	12	21					12
○健康に関する 講座等の開催事 業数	事業	7	6					10

担当: ◎文化振興課、○図書・学び交流課、◇スポーツ課、●こども・青少年課

② 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
◇スポーツ教室 延べ参加者数	人	1,062	722					1,196
◇年1回以上直接会場でスポーツを観戦している人の割合	%	34.3	※1 —					37.3
○健康に関する講座等の延べ参加者数	人	125	267					135

担当: ◎文化振興課、○図書・学び交流課、◇スポーツ課、●こども・青少年課

※1 年1回以上直接会場でスポーツを観戦している人の割合については、大和市スポーツ推進計画において実績を把握する年度(令和3年度実施予定)が決められていることから令和元年度の実績はありません。

③ 施策の成果

- 健康維持・増進に関する学習機会を提供し、健やかに楽しく生きるための知識を深め、健康づくりにつながる学習機会を提供しました。また、食事や運動についても、「夏バテに負けない体づくり」など5月から6月にかけて体づくりや夏野菜に関する講義などを交えた講座を実施し、地域住民からニーズのある題材を取り上げました。
- スポーツ教室については、東京2020オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ等に関連する注目度の高い教室を実施しました。
また、運動機会が得にくい子育て世代の参加を促進するため託児室を用意したほか、令和元年度は新たに教室メニューを2種目増やすなど、より多くの市民がスポーツに触れる機会を創出しました。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止となったスポーツ教室や、天候の影響を受けた教室があったため、計画時より実績が減少しましたが、今後も安全に配慮しながら、魅力のある教室を展開します。
- 市民のスポーツ観戦機会の提供については、トップスポーツ観戦デーとして、関東大学対抗戦(関東大学ラグビー)とバドミントンS/Jリーグを開催。いずれも大和スポーツセンターで開催し、身近な場所で国内トップレベルのアスリートによるハイレベルなスポーツ観戦の機会を提供することで、スポーツへの関心を高めました。バドミントンS/Jリーグの試合では、ラケットを振りぬく音や、スマッシュのスピードの速さなど、トップレベルの試合を至近で観戦し、さらには会場一体となって応援する雰囲気なども体感できる良い機会となりました。また、大和スタジアムで開催したプロ野球選手OBによる「宝くじスポーツフェア ドリーム・ベースボール」では、大和市選抜チームとOB選手との対戦を観戦する機会を提供しました。



トップスポーツ観戦デー

④ 今後の課題

- ・北部文化・スポーツ・子育てセンター（市民交流拠点ポラリス）は、屋内球技（バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球など）ができるアリーナを有する学習センターですが、アリーナは平日や休日にはスポーツ団体やサークルの利用、個人のスポーツ利用の希望も多くあり、幼児期から高齢期まで幅広い世代に対する体力維持や健康増進、介護予防への取り組みなどの講座を実施することができませんでした。今後はアリーナだけでなく、地区館の多目的室などを含めた会場においても、スポーツに関する講座を開催することは、新たなスポーツを知るきっかけや、地域コミュニティの活性化にも活用できると考えられることから、共に学ぶ仲間づくりを支援できるような事業の企画が求められます。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピックをはじめ、注目度の高い国際大会等を契機とするスポーツへの機運の高まりを逃すことなく、スポーツ教室やトップスポーツ観戦デーのメニューに反映させ、市民に広くスポーツの体験・観戦機会を創出していくことが求められます。

個別目標1—(4) スポーツや健康に関する学習機会の提供

[達成度] B

個別目標1—(5) 芸術・文化・歴史に関する学習機会の提供

- ・心豊かで潤いある生活を送るには、文化や芸術に親しむことができる機会の提供が大切です。
- ・地域の歴史や伝統、文化を知ることが、郷土意識の醸成にも寄与します。

【めざす姿】

芸術や文化に関する学習機会や、歴史や伝統が受け継がれていくための学習活動が展開され、文化芸術に親しむ市民が増えている。

【施策の内容】

- 芸術や文化に親しむ学習機会を提供します。
 - ・音楽や演劇の発表会、芸術鑑賞の機会、芸術文化に関する講座など、市民が芸術や文化に親しむ学習機会を提供します。
 - ・芸術活動や文化活動を行う学習団体との情報共有及び連携を進め、学習団体の活性化、文化芸術活動の推進を図ります。
- 歴史や伝統が受け継がれていくための学習機会を提供します。
 - ・市民が伝統文化を知る機会の充実を図り、歴史や文化が後世に継承されていくための学習機会を提供します。
 - ・郷土資料や文化財を収集して保護し、調査研究を進めるとともに、展示や刊行物の発行といった形での学習機会も提供します。

実施計画での取組と令和元年度の実績

① 活動指標

(網掛け部分は市長部局の所管)

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○芸術・文化に関する講座等の開催事業数	事業	3	3					8
◎つる舞の里歴史資料館企画展の開催回数	回	3	3					3
◎歴史文化施設の開催事業数	事業	65	65					65

担当: ◎文化振興課、○図書・学び交流課、◇スポーツ課、●こども・青少年課

② 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○芸術・文化に関する講座等の延べ参加者数	人	263	250					288
◎つる舞の里歴史資料館で開催する企画展(3館合同含む)の来館者数	人	1,740	1,804					2,400
◎歴史文化施設の利用者数	人	54,443	47,760					61,200

担当:◎文化振興課、○図書・学び交流課、◇スポーツ課、●こども・青少年課

③ 施策の成果

- 各学習センターにおいて、音楽公演会やミニコンサート等の開催など、芸術・文化に関する活動の充実を図るため企画しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月いっぱい休館となったことから、音楽祭や演劇ワークショップ、漫画家に学ぶ作画体験などの事業が中止となりました。
- つる舞の里歴史資料館をはじめとする歴史文化施設では、郷土資料や文化財を継続的に収集・保護し調査研究をすすめました。調査成果は企画展示・講座・刊行物の発行という形で還元し、市民に学習機会を提供しました。つる舞の里歴史資料館では報告書が刊行された「人生儀礼」をテーマとした企画展およびそれに関連したギャラリートークのほか、「つるまい土曜講座」、ミニ企画展等を実施し、市域の歴史や文化財の紹介に努めました。つる舞の里歴史資料館・下鶴間ふるさと館両館では、年中行事の展示を市民サークルの協力を得て実施しており、市民の活動成果の発表の場ともなっています。また、市指定重要無形民俗文化財である「上和田薬王院双盤念佛」をテーマに専門の研究者を講師に招いた文化財愛護講座を開催しました。



つる舞の里歴史資料館企画展

④ 今後の課題

- 音楽祭など1年を通して練習し、成果発表の場として開催するものについては年度末の開催に偏ってしまい、今回のような休館で講座の実施ができなくなることもあるため、各館で事業の実施時期を調整するなど、実施時期について年間のバランスを検討する必要があります。
- ギャラリーを有する学習センターが3館あり、絵画や書道などの創作活動を支援する取り組みとして、芸術・文化に関する講座の開催について、団体やサークルとの情報共有や連携を行うとともに、ギャラリー利用の推進をとおして、文化芸術活動を活発にしていく必要があります。
- つる舞の里歴史資料館、郷土民家園、下鶴間ふるさと館の文化財3施設については、年中行事の実施など施設の個性や魅力を伝えるよう努めていますが、入館者数などは年により波があります。今後も、企画内容や情報発信の方法についての工夫を継続し、市民の学習機会の充実に努めていく必要があります。

個別目標1—(5) 芸術・文化・歴史に関する学習機会の提供

[達成度] B

【施策目標1に対する評価及び目標達成に向けた施策の展開方針】

- ・令和元年度の市内3図書館の年間来館者数は400万人を越え、図書資料等の貸出冊数も全図書館施設合計で約139万冊を数えており、図書館は多くの人へ学習の場を提供できていると考えられます。
- ・平成31年4月から市内の図書館・図書室は全て民間の指定管理者による管理運営体制に移行しました。
民間事業者の能力を十分に活用すると共に、各図書館を連携させた一体的な管理運営のあり方を検討していきます。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の不安もある中、『安心して』学習できる場の提供方法に課題があります。
- ・健康都市大学「市民でつくる健康学部」は、学びを通じた市民の新たな居場所となったことで、気軽に学習できる場の提供につながりました。引き続き、より多くの市民の受講を目指し、広報活動や魅力的な講座の開催に努めます。
- ・学習による自己充足を図るため、生涯各期に応じた学習機会の提供や、現代的課題及びスポーツや健康に関する学習機会の提供に積極的に取り組んでおり、概ね成果が得られています。
- ・芸術・文化に関する講座は事業数が少ないこともあり、ポスターやチラシによる広報が他の事業に埋もれてしまうことがあるため、限られた事業の周知方法について検討する必要があります。
- ・講座の終了時にはアンケートを実施し、調査結果を踏まえて次回以降の事業に役立てました。
- ・ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピックなど、日本で開催される国際的なスポーツイベントを契機とした機運の高まりを逃すことなく、関心の高い種目を選択することで、多くの方にスポーツの楽しさを提供することができました。
- ・スポーツを「みる」ことを「する」ことへの動機づけとし、健康の保持増進へとつないでいく必要があります。
- ・令和元年度における文化財3施設の入館者数は、秋に実施したつる舞の里歴史資料館企画展の来場者数が期待したほど伸びなかったこと、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための企画や展示の中止や、施設の閉館により大きく減っています。引き続きより魅力ある事業展開に努めるとともに、学校等へのPRを強化するなど、施設利用の促進を図ります。

施策目標1 誰もがいつでも気軽に学習できる場を提供します

【総合評価】 B

施策目標2 学習を通じて人と人とのつながり、交流の輪を広げます

仲間や友人などと共に学ぶことによって、人と人とのつながりや交流が生まれます。学習活動や学習成果の発表を通じた“学びによるつながり”は、地域における交流や連帯感を深め、地域のコミュニティづくりにつながることを期待されます。

個別目標2—(1) 情報提供や学習相談による支援

- ・学習に関する情報提供は、これから学習活動を始めようとする人たちにとっては大きな助けとなります。
- ・誰もが気兼ねなく、学習活動に取り組むことができる支援も必要です。

【めざす姿】

学習に関する情報や相談体制が充実し、市民の学習活動が活発になる。

【施策の内容】

- 学習に関する情報を効果的に提供します。
 - ・必要としている人に必要とされる情報が届き、学習活動へとつながるよう、体系的かつ効果的な情報伝達をしていきます。
 - ・講座の内容や募集方法、施設の場所や利用方法、催事、人材及び団体情報など、学習に関する様々な情報を、各種情報媒体を活用し提供していきます。
 - ・関係施設に関する情報や、民間情報についても積極的に提供するなど、情報収集及び整理を行い、提供する機能を充実させます。
 - ・図書館において、幅広い分野の資料を収集するとともに、レファレンスサービスを充実することで、市民の読書活動や学習活動を支援します。
- 学習相談による充実した支援を行います。
 - ・学習希望者の様々なニーズに対応できるよう、適切かつ確かな学習相談による支援を行います。
 - ・学習団体に対し、学習発表等の企画立案やPR方法などの助言及び支援を行い、市民交流の促進を図ります。

① 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○図書館の蔵書数	冊	586,553	617,823					686,000
○学習相談員数	人	※1 32	36					33
○レファレンスサービスの広報回数	回	4	2					8

※1 計画策定時（平成29年）の学習相談員の数は、生涯学習センター（指定管理者）の職員と地区館（市職員）を合算。

② 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○市民一人あたりの図書の貸出冊数	冊	5.39	5.83					5.85
○学習に関する相談件数	件	3,382	4,454					3,962
○レファレンス受付件数	件	295	456					302

担当: ◎文化振興課、○図書・学び交流課、◇スポーツ課、●こども・青少年課

③ 施策の成果

- ・平成30年度に引き続き、学習情報をコンパクトにまとめた「生涯学習支援ガイド」や「広報やまと」、市のホームページなどを活用し、継続的に学習情報を提供するとともに、窓口・電話での学習相談を行い、学習を希望する市民へ個人・団体それぞれの求める支援につなぐことに努めました。
- ・学習団体の活動をさらに多くの市民へ周知するため、電話や窓口において、学習団体の活動内容について説明をきめ細かく行い、団体の活動紹介などを行いました。また、学習団体の展示発表の場として、ギャラリーを活用し、生涯学習センターにおいては6階の空き会議室をギャラリーとして貸し出すなどの新たな取り組みを始めました。
- ・図書館におけるレファレンスサービスの提供は、市民の自主的な学習活動を支援する図書館の基幹サービスのひとつであり、利用者の満足度向上にも直結することから市内各図書館において、注力した結果、456件という多くの利用がありました。また、291,567件のリクエストを受け付け、市民の学びたいという気持ちに応えました。

④ 今後の課題

- ・学習団体に対する支援においては、まなびの輪支援事業を単なる体験会とするだけでなく、団体の活動に賛同する人を集める機会とし、また、事業開催のチラシ・ポスターの作成では、指定管理者のノウハウを団体へ還元できるよう、支援方法を確立することが課題です。
- ・生涯学習の推進および充実に学習相談は重要であるため、近年インターネットの普及により個人で多くの情報を得ることも容易になりつつありますが、スマートフォンやタブレット端末など、情報機器の操作に不慣れな利用者も多いため、会議室の予約方法のアナウンスや講座の申込み方法だけでなく、紙（チラシ等）で日ごろ生涯学習に関する情報を取得している層に対する広報手段についても、引き続き効果的な手段を検討する必要があります。
- ・図書館におけるレファレンスサービスの利用数は図書館機能を計る重要な指標のひとつであることから、今後も利用者数の増加に努める必要があります。

個別目標2—(1) 情報提供や学習相談による支援

[達成度] A

個別目標2—(2) 人材や団体の育成と活用に関する支援

- ・個人や団体が学習により得た知識や経験を、地域や他の学習希望者と共有することは、社会に有益であるとともに、本人にとっても大変意義のあることです。
- ・生涯学習を推進していく上では、学習者の支援とともに、学習支援者となる人材や団体を育成し活用することが重要です。

【めざす姿】

学びを支える担い手づくりが進められ、市民同士で教え、学び合うシステムの構築が進んでいる。

【施策の内容】

- 学習者や学習支援者、学習団体への支援の充実を図ります。
 - ・市民の学習活動が円滑に行われるよう学習者や学習支援者、学習団体を支援するとともに、学習成果を市民の生涯学習推進に活用します。
 - ・学習者の高齢化などにより、活動の継続が困難となっている団体に対し、継続して団体活動が行えるよう相談や支援を進めます。
 - ・子どもの読書活動に関わるボランティアの育成を図ります。

実施計画での取組と令和元年度の実績

① 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○団体利用の登録説明会の開催回数	回	-	1					5
○「読み聞かせボランティア養成講座」の開催回数	回	11	9					11

② 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○学習団体の登録数	団体	1,761	1,991					1,849
○「読み聞かせボランティア養成講座」等の延べ参加者数	人	127	175					300

担当：◎文化振興課、○図書・学び交流課、◇スポーツ課、●こども・青少年課

③ 施策の成果

- ・「団体利用の登録説明会」はこれまで各学習センターで実施されてきた「利用者懇談会」のような既存の利用団体に対する利用者説明会ではなく、これまで学習センターを利用したことのない市民や団体を対象に、施設見学と利用登録に関する説明会を開催しました。この説明会は、生涯学習センターが何をやる場所か知らなかった人や、新たな活動場所を探している団体などが施設を利用するきっかけや、学習センター内にどのような部屋や機材があるかなどを知る機会となりました。
- ・学習団体の登録数は、一時、旧林間学習センターで活動していた団体などの利用中止に伴う減少もありましたが、市民交流拠点ポラリスを会場としてスポーツなどで活動する新規利用団体の増加などもあり、登録団体数は増加しています。
- ・「子ども読書わくわくプラン」に基づき、様々な取り組みを進めるうえで、読み聞かせボランティアの存在は大変重要な要素であることから、ボランティアにかかわる人材の育成や、その活動場所を確保する取り組みを進めました。図書館では、令和元年度にボランティアを養成する各種講座を開催し、それぞれの経験や技術に応じた内容とするなど、初心者から経験者までが幅広く参加できる体制を整えたことから、令和元年度は年間175人の参加がありました。
- ・また、ボランティアの活躍場所の確保のため、大和市立図書館内でボランティアによるおはなし会を年39回実施しました。



読み聞かせボランティア
養成講座

④ 今後の課題

- ・学習者の高齢化などにより、活動の継続が困難となっている団体は引き続き増加しています。継続して活動が行えるよう相談の機会や支援方法を見直し、新規会員獲得のため、市民交流スペースなどの多くの利用者が集まる場所を活用し、新規学習団体の立ち上げを促すための仕掛けを検討する必要があります。
- ・学習団体間の交流の活発化を図るとともに、引き続き市民活動団体など他団体との交流を行い、地域や社会への広がりある活動の支援を検討する必要があります。
- ・子どもの読書活動にかかわるボランティアは、それぞれ地域のボランティア団体やグループに所属するなどし、個々に活動することが多いことから、ボランティア団体間の相互の交流機会を図書館が中心になって提供することで、ボランティア同士の情報交換を促進し、スキルアップを図ることができる機会を創出することが必要です。



シリウス6階 市民交流スペース

個別目標2—(2) 人材や団体の育成と活用に関する支援

[達成度] A

個別目標2—(3) 学習による市民相互の交流への支援

- ・学習による自己の充足だけでなく、学習活動を通じて人と人とのつながり、市民間の交流を促し、地域コミュニティの形成につなげていくことが必要です。

【めざす姿】

学習活動や学習成果の発表を通して、地域コミュニティが生まれている。

【施策の内容】

- 市民相互交流が生まれる学習活動や学習成果の発表を支援します。
 - ・日頃の学習活動、学習成果を発表できる場を設けるとともに、参加者への支援や内外への周知を積極的に行い、学習による市民相互交流や地域コミュニティの形成を促します。
- 市民の交流機会を創出する学習団体を支援します。
 - ・学習活動や学習成果の発表などにより、市民交流の創出を推進する学習団体を支援します。

実施計画での取組と令和元年度の実績

① 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○学習センターまっりの回数	回	5	5					5
○学習団体による講座等の広報回数	回	-	948					800
○まなびの輪支援事業説明会の実施回数	回	5	3					5

② 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○学習センターまつり参加団体数	団体	170	159					180
○学習団体による講座等参加者数	人	3,218	2,898					3,550
○学習団体の活動支援件数	件	99	62					104

担当：◎文化振興課、○図書・学び交流課、◇スポーツ課、●こども・青少年課

③ 施策の成果

- ・社会教育関係団体等を対象とした利用者懇談会では、学習センターで年1回行われる「学習センターまつり」への参加を促し、市民相互交流の充実を図りました。この、「学習センターまつり」は、多くの団体によって構成される実行委員会形式で開催され、準備期間中の会議では、「家族連れにもっと来館してもらうにはどうしたらよいか」、「児童・生徒の来館を促すにはどのような取り組みが必要か」など、活発な意見交換が行われています。また、実行委員会に参加している各団体からの出席者同士、意見交換や準備作業から団体を超えた交流（コラボレーション）が生まれ、まつりの当日だけでなく、実行委員会活動においてもいきいきと取り組む姿が見受けられ、とても有意義なものとなっています。
- ・令和元年度の「生涯学習センターまつり」では、近隣の中学校と協力し、会議室で生徒の作品展示を初めて行いました。実行委員や来館者のアンケートからは「一人ひとりの個性が出ており、見ていてとても楽しかった。懐かしい思い出に浸らせていただきよかったです。」「中学生新聞について、よく調べて丁寧に作成されていた。将来につながるよい企画だとおもいます。」などの意見があり、普段生涯学習センターで活動している団体にとって、他のサークル活動や交流の機会が少ない中学生との交流は、団体にとっても学生にとってもお互い良い刺激となりました。
- ・学習団体による広報活動については、まなびの輪支援事業で開催する各団体が広く市民を対象に行う体験講座や自主事業の周知・広報活動を行っています。このまなびの輪支援事業では各団体の取り組みに参加してもらうだけでなく、団体の取り組みに興味を持ってもらい、新規会員を取り込むことも目的の1つでもあるため、各団体で実施回数や内容を工夫し、体験活動をメインとした地域市民同士の交流や、地域活動の推進が行われています。



生涯学習センターまつり

④ 今後の課題

- ・市内5館の学習センターがすべて指定管理者による管理運営となり、これまで市が培った地域とのつながりをさらに深め、学びを地域課題の解決へ結びつけられるよう、地域とのつながりや団体との連携がより一層求められます。
- ・学習センターまつりの参加団体数が計画策定時と比較し減少しています。5館連携し、まつりに参加している団体が出張講座のようなかたちで普段の活動拠点と異なる地域（学習センター）に行って自主事業をおこなったり、普段活動していない学習センターのまつりに参加することにより、他団体との交流を活発にし、それぞれの地域課題を共有したり、新たなつながりを生み出すなど、地域間の生涯学習活動支援を検討することも必要です。
- ・学習者の高齢化などにより、活動の継続が困難となっている団体は引き続き増加しています。継続して活動が行えるよう、相談の機会や支援方法を見直し、新規会員獲得のため、市民交流スペースなどの多くの利用者が集まる場所を活用し、新規学習団体の立ち上げを促すための仕掛けを検討する必要があります。

個別目標2—(3) 学習による市民相互の交流への支援

[達成度] C

[施策目標2に対する評価及び目標達成に向けた施策の展開方針]

- ・文化創造拠点シリウスには市民交流スペース、市民交流拠点ポラリスには市民交流スペースや親子交流サロン・テラスもあり、多くの市民が来館しています。来館者に対し、ポスターなどの掲示物やチラシの配架などにより、学習活動に関する情報を提供しています。これらの広報物は、学習センターや市の主催事業のほか、各種の学習団体が自主的に行う事業も含まれ、多くの市民に地域の学習活動や学習実践者の情報提供、団体への支援など学習を通じた市民の交流促進などの情報提供に積極的に取り組んでいます。
- ・多くの市民が来館する複合施設のメリットを生かし、多くの市民が学習機会に触れ、人と人との交流を活性化できるような支援や、既存の団体やサークルが継続的に学習活動を行えるような体制づくりを支援し、地域での学び合いを支える担い手の育成に努めていきます。
- ・北部文化・スポーツ・子育てセンター（市民交流拠点ポラリス）は、屋内球技（バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球など）ができるアリーナを有する学習センターですが、アリーナは平日や休日にはスポーツ団体やサークルの利用、個人のスポーツ利用の希望も多くあり講座を実施することができませんでした。スポーツに関する講座はアリーナだけでなく、地区館の多目的室などを含めた会場においても新たなスポーツを知るきっかけや、地域コミュニティの活性化にも活用できると考えられることから、共に学ぶ仲間づくりを支援できるような事業の企画が求められます。
- ・図書館では読み聞かせボランティアの育成に力を注いでおり、ボランティアの養成講座を行っています。また、活動の場としてのボランティアによるおはなし会の実施や、個々に活動しがちなボランティア団体同士の情報交換の場を提供するなど、学び、交流の場を質・量の両面で広げています。

施策目標2 学習を通じて人と人とのつながり、交流の輪を広げます

[総合評価] B

施策目標3 学習のための環境や仕組みの充実を図ります

施策目標1・2を達成するためには、学習のための環境づくりや仕組みづくりが欠かせません。そのためには、施設の適切な維持管理や機能の充実、生涯学習を支援・推進する体制の充実、関係機関との連携推進を図る必要があります。

個別目標3－(1) 学習施設の適切な維持管理・機能の充実

- ・生涯学習を推進するためには、安全で快適な学習環境の提供とともに、それを維持していくことが大切です。
- ・市民の学習ニーズの多様化にも、対応していけるような施設の維持及び更新が必要です。

【めざす姿】

市民が快適な環境で学習している。

【施策の内容】

- 学習施設の適切な維持管理、機能の充実を図ります。
 - ・安全で快適な学習環境を提供するため、学習施設の適切な維持管理を行うとともに、様々なニーズに対応するための機能の充実を図ります。
 - ・学習センター全館を指定管理者による管理運営とし、民間のノウハウを活用した学習機会の提供や効率的な管理運営を図ります。

実施計画での取組と令和元年度の実績

① 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○利用者懇談会の実施回数	回	5	※1 2					10

※1 令和元年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学習センター3館で各1回中止となった。

② 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○アンケートによる利用者の満足度	%	—	81					80

担当: ◎文化振興課、○図書・学び交流課、◇スポーツ課、●こども・青少年課

③ 施策の成果

- ・市民から多く要望があった、市民交流拠点ポラリスのアリーナにカーテンを設置し、スポーツ利用時の環境を充実させ、安全で快適な環境を提供しました。
- ・利用者懇談会においては、社会教育関係団体等から利用方法について意見が出され、利用者の求めるサービスを提供し、学習環境の維持向上に努めました。



市民交流拠点ポラリス
(南側外観)



(アリーナ内観)

④ 今後の課題

- ・文化創造拠点シリウスは市の代表的な複合施設として、幼児から大人まで大変多くの利用者が訪れています。利用者懇談会で出された意見から、利用者の視点に立ったサービスを提供できるよう考えるとともに、様々な年代が利用する施設でもあることから安全面が向上されるよう維持管理の見直しを行う必要があります。
- ・今年度より、各学習センターにおいて来館者アンケートを実施し、施設の維持管理や機能面について、目標とする約8割の利用者から満足いただいています。現状の利用者満足度を維持・向上し、利用者の様々なニーズにこたえ、安全面や衛生面など、引き続き指定管理者の管理運営ノウハウを活用し、学習環境の維持管理を行っていく必要があります。

個別目標3—(1) 学習施設の適切な維持管理・機能の充実

[達成度] B

個別目標3—(2) 支援・推進体制の充実

- ・学習活動の充実を図る上で、行政各部門の専門性を活用することも、有効な手段となります。
- ・また、行政の施策等を効果的かつ効率的に進めていくには、有識者の意見等を参考にしながら、有効な方策等を検討することも必要です。

【めざす姿】

行政の知識や経験が市民の学習活動に活かされているとともに、生涯学習を進めていく方策が検討されている。

【施策の内容】

- 行政の専門性を活用して、市民の学習活動を支援します。
 - ・行政の専門知識を市民の学習の場で活用し、市民の学習活動を支援します。
 - ・より効果的かつ効率的な学習支援を図るため、行政各部門と緊密に連携するとともに市民への幅広い情報提供を行います。
- 学識経験者とともに学習活動を推進する方策の検討を行います。
 - ・学識経験者が参画する学びに関する各種会議を開催し、生涯学習推進に向けた方策の検討等を行います。
 - ・各種会議の審議等を通じて、行政の施策等を適正かつ効率的に実施します。

実施計画での取組と令和元年度の実績

① 活動指標

(網掛け部分は市長部局の所管)

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○「どこでも講座」の開催事業数	事業	88	88					88
◇審議会等の開催回数(スポーツ推進審議会)	回	3	※1 2					5
○審議会等の開催回数(社会教育委員会議)	回	4	※2 4					4

※1 スポーツ推進審議会は第3回審議会を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

※2 社会教育委員会議は第4回定例会を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

② 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○「どこでも講座」 の延べ参加者数	人	452	310					630
審議した案件数								
◇スポーツ推進 審議会	件	6	2					6
○社会教育委員 会議	件	8	6					8

担当: ◎文化振興課、○図書・学び交流課、◇スポーツ課、●こども・青少年課

③ 施策の成果

- ・開かれた市政の推進及び市民の市制運営への意識を醸成し、生涯学習によるまちづくりの振興を推進するため、市民の自主学習の場に職員を講師として派遣する、生涯学習出前講座「どこでも講座」を実施しており、毎年事業数は増減しながらも、88事業を維持しています。
- ・スポーツ推進審議会、社会教育委員会議のいずれも新型コロナウイルス感染症の感染対策の影響により減少しているが、特に社会教育委員会議においては地教行法改正に伴う社会教育施設の管理運営事務の市長部局への移管業務などの重要事項において十分な審議を行っているほか、2年目となる家庭教育支援事業においては、外部の講師を招き、親育ての講座を充実するなど支援事業の充実を図った。
- ・社会教育委員会議では、平成27年に行われた社会教育委員と教育委員との情報交換会をきっかけに、コミュニティセンターを活用した家庭教育支援事業の提案がなされ、社会教育主事の企画を元に社会教育委員会議で検討し、地域に出るアウトリーチ型の家庭教育支援事業を実施しました。令和元年度は柳橋コミセンを会場に、家庭教育に関する親と子の関わり合いについて講義後、地域の公園で子どもの自然体験に親が関わることの必要性について、現場での実技を交え自然体験学習を行いました。受講者からのアンケートでは、「身近な場所で色々話が聞けて楽しかった。今度子どもに話してみようと思う」「子どもと身近な公園で過ごす良いヒントになった」などの意見があり、家庭教育の大切さを理解し、講座で得た知識を各家庭で実践したり、友人等へ広めたいと考える市民が多く出たことは非常に有意義なものとなりました。



家庭教育支援講座

④ 今後の課題

- ・どこでも講座のメニューを増やすことも魅力的な講座の運営には必要ですが、メニューを充実させるための取り組みや、受講者を増やすための周知方法についても、現状のツール（チラシ作成やHP）以外の方法などを検討していく必要があります。
- ・家庭教育支援事業については、このような講座の受講をきっかけとして、家族内のコミュニケーションの活性化や、市民同士のさらなる交流推進のため、受講者自らが地域で子どもと一緒に楽しむ企画が行えるような支援を検討するなどの、継続的な支援が必要です。また、事業を地域に浸透させるためにもある程度継続して実施する必要があります。

個別目標3—(2)支援・推進体制の充実

[達成度] B

個別目標3—(3) 関係機関との連携推進

- ・市民の学びの裾野を広げていくなかでは、学びに関わりのある様々な組織や個人の協力を得ながら取り組んでいく必要があります。

【めざす姿】

多くの組織や個人が行政と連携して、市民の学習活動に貢献している。

【施策の内容】

- 学校や市民の学習団体、民間教育機関、個人ボランティアなどとの連携を図ります。
 - ・学校との連携を図りながら、学校施設を地域の「学びの場」として開放します。
 - ・民間教育機関、市民の学習団体や個人ボランティアなどとの連携により、その教育力を生涯学習推進施策に活用します。
- 地域の各種団体等との連携を図るとともに、活動を支援します。
 - ・地域で活躍する各種団体や機関と連携し、学習のための環境づくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成や活性化を図るため、団体等の活動を支援します。
 - ・地域スポーツを支えるスポーツ指導者の育成やスポーツ環境を充実させ、地域スポーツの振興と安全なスポーツ活動を推進します。

実施計画での取組と令和元年度の実績

① 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○ボランティア講師登録数	人	171	159					153
○特別教室開放施設数	施設	9	9					9
◇学校施設のスポーツ開放利用団体数	団体	456	430					476
●青少年指導員の委嘱人数	人	106	107					120

担当: ◎文化振興課、○図書・学び交流課、◇スポーツ課、●こども・青少年課

② 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H29)	実績値					最終目標値 (R5)
			R1	R2	R3	R4	R5	
○ボランティア講師利用件数	件	22	6					25
○特別教室開放利用者数	人	16,094	16,038					17,766
◇学校施設のスポーツ開放利用件数	件	14,350	13,279					15,082
●青少年指導員の活動延べ日数	日	430	430					450

担当: ◎文化振興課、○図書・学び交流課、◇スポーツ課、●こども・青少年課

③ 施策の成果

- ・ボランティア講師の利用件数については、計画策定時より大幅に少ない件数となりました。これは新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響もあり、学習相談を受けた際に、開催時期の再検討を依頼するなどしたことも影響しています。
- ・学習センターでは、ボランティア講師の事業を紹介するため「生涯学習ねっとわあく制度お試し講座」などを実施し、やまと生涯学習ねっとわあく制度の登録ボランティアを講師に、様々な分野の体験講座を行っています。
- ・市民の身近な生涯学習の場として市内の小・中学校の特別教室を開放しており、施設数は市内のバランスもあり9施設となっています。学校ごとに開放している教室や設備が異なり、学習センターのような調理室や、工作ができる部屋から陶芸窯のある学校まで様々な団体に利用いただいています。
- ・特別教室開放事業の利用者数は計画策定時と比較して大きな変動がなく、利用する団体やサークルも新規団体は少なく、既存の団体による継続的な活動が行われています。
- ・学校施設のスポーツ開放では、学校施設を拠点として、市民が参加しやすい環境を提供できており、また、各地域スポーツ及びレクリエーション活動が活発に行われていることから、十分な成果が認められます。
- ・青少年指導員連絡協議会の各専門部会を開催するとともに、地域の実情に合わせた活発な活動を展開し、各地域で青少年健全育成に取り組みました。



やまと生涯学習ねっとわあく
ボランティア講師講座
「エコ布ぞうりづくり」

④ 今後の課題

- ・特別教室開放事業において、学校によっては開放枠自体が著しく少ないところがあるほか、利用が頭打ち状態にあるため、学習センターを利用している団体に向けた広報・周知などを検討し、利用者数を増やすことが課題です。
- ・ボランティア講師も学習センターで活動する団体やサークルと同様に高年齢化が進んでおり、講師を辞退する人も多くなってきています。地域人材の掘り起こしのため、さらなる広報・周知活動や、文化・芸術のスキルはあっても人に教えることが苦手な人に向けたボランティア講師養成講座など、支援の方法を検討する必要があります。
- ・学校施設のスポーツ開放では、校庭や体育館などの施設利用率が高くなっているため、施設ごとの稼働率を考慮した利用方法等の検討を行っていく必要があります。

個別目標3—(3)関係機関との連携推進

[達成度] C

〔施策目標3に対する評価及び目標達成に向けた施策の展開方針〕

- ・文化創造拠点シリウスを中心として、各学習センターや図書館の環境整備を推進し、快適な学習環境となるように努めます。
- ・市の社会教育について、家庭教育支援事業を中心に学識経験者や学校教育、社会教育などに携わる方々が協議する社会教育委員会議で家庭教育支援の進め方について、地域団体との連携方法や学校との連携等を継続して協議しています。
- ・地域における生涯学習の場として、学校の特別教室等を開放していますが、特別教室開放施設数は横ばいの状態ですが、各校の利用実態を確認すると、学校毎に開放状況が異なっていることから、開放状況について実態を把握するとともに、さらに多くの人が利用できるよう、特別教室開放推進委員会等で検討を行い、利用しやすい環境を整えます。
- ・子どもが様々な体験活動を通して学ぶための環境や仕組みを充実させるためには、青少年指導員をはじめとする地域の各種団体や機関が協力していくことが不可欠であり、相互に連携を図っていくよう支援していきます。

施策目標 3 学習のための環境や仕組みの充実を図ります

〔総合評価〕 B

— 事 務 担 当 —

教育部 教育総務課 政策調整係

TEL 046 (260) 5203 (直通)

文化スポーツ部 図書・学び交流課 学び交流係

TEL 046 (259) 6104 (直通)